

# 令和元年度「丹後織物業の景況・動向調査」報告書

調査対象	丹後地区内の織物事業者：162 事業者（「丹後織物工業組合」に加入する親機事業者）	
調査期間	令和元年 12 月～令和 2 年 2 月	
調査方法	アンケート調査	対象：162 事業者 ⇒ 回答：83 事業者(回答率:51.2%)
	聞き取り調査	訪問：9 事業者(白生地 3、帯地 2、その他 4)
回答者の属性	市町別	*京丹後市:49% *与謝野町:51%
	生産品目別	*白生地:45% *帯地:28% *その他(服地、小物、その他):28%
	年代別	*40 歳代以下:13% *50～60 歳代:53% *70 歳代以上:34%

[令和 2 年 3 月：公益財団法人 京都産業 21 北部支援センター]

## 《はじめに》

- (公財)京都産業 21 北部支援センターでは、丹後地域織物業の景況や動向を把握し、関係機関等の参考としていただくため、令和元年 12 月から令和 2 年 2 月にかけて「アンケート調査」と「聞き取り調査」を行いました。
- 丹後産地の令和元年白生地生産量は 25.3 万反、前年比 10.3%の減少となる中、今回の「アンケート調査」でも D I 値は 5 年連続のマイナスとなり、その値は-46 となりました。
- これら「アンケート調査」結果と補完するための「聞き取り調査」の内容を併せて、「景況・動向」と「丹後産地の展望・課題」の 2 部構成で、令和元年度「丹後織物業の景況・動向調査」報告書としてまとめました。

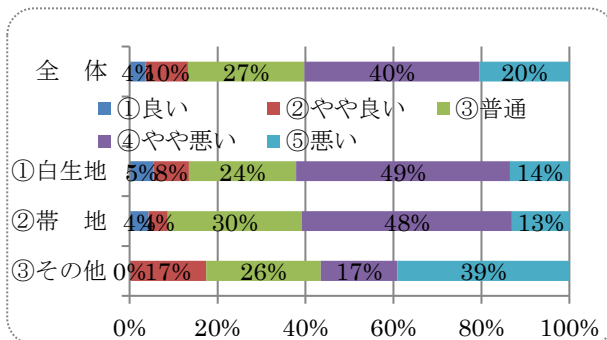
## 《第 1 部：景況・動向》

### 【アンケート結果】

#### 1 令和元年の景況感

=D I 値マイナス 46、白生地マイナス 50=

- 令和元年の景況感は、全体で「良い」と「やや良い」を合わせて 14%(前年比-11PT)、「悪い」と「やや悪い」を合わせて 60%(前年比-20PT)となった。その結果 D I 値は-46(前年比-31PT)となった。
- 生産品目別に D I 値を見ると、白生地では-50(前年比-69PT)、帯地は-53(前年比-16PT)、その他(服地、小物、ネクタイ地等)は-39(前年比-1PT)となった。

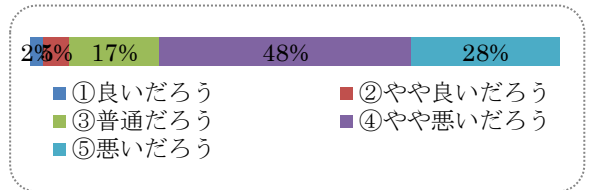


#### 2 令和 2 年の景況見通し

=D I 値マイナス 69 で悪化の見通し=

- 景況見通しについては、全体で「良い」と「やや良い」を合わせて 7%(前年比-3 PT)、「悪い」と「やや悪い」を合わせると 76%(前年比+19PT)となり、D I 値は-69 となった。令和元年の D I

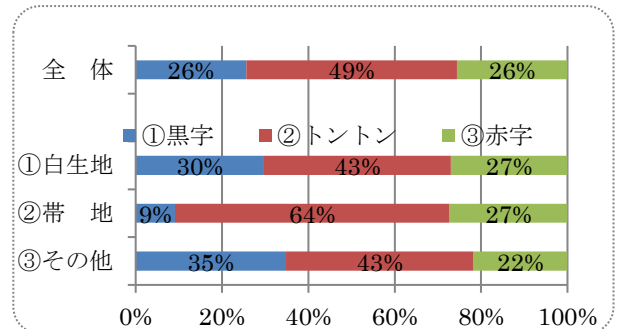
値-46 に引き続き悪化の見通しとなった。



#### 3 令和元年の採算状況

=採算はほぼ前年並み=

- 採算状況は、全体で「黒字」が 26%(前年比-3PT)、「トントン」が 49%(前年比+2PT)、「赤字」は 26%(前年比+3PT)。黒字と赤字が同様となった。
- 生産品目別に「黒字」の比率を見ると、その他 35%、白生地 30%、帯地 9%の順。「トントン」では、帯地 64%、白生地 43%、その他 43%となった。「赤字」は、白生地、帯地及びその他に大きな差異は見られなかった。



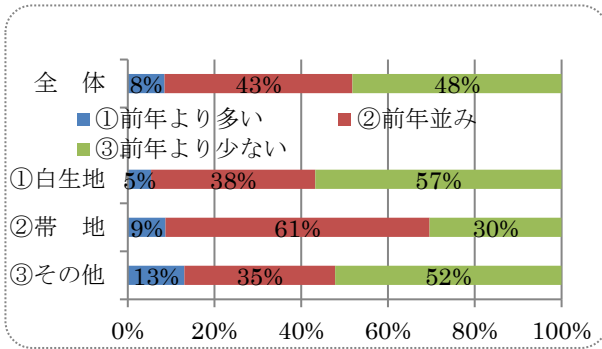
#### 4 令和元年の生産受注

=「前年並み」以上 51%、帯地好調=

- 生産・受注量は、全体で「前年より多い」が 8%(前年比-2PT)と「前年並み」が 43%(前年比-13PT)、を合わせて 51%、「前年より少ない」が

48% (前年比+14PT) となった。

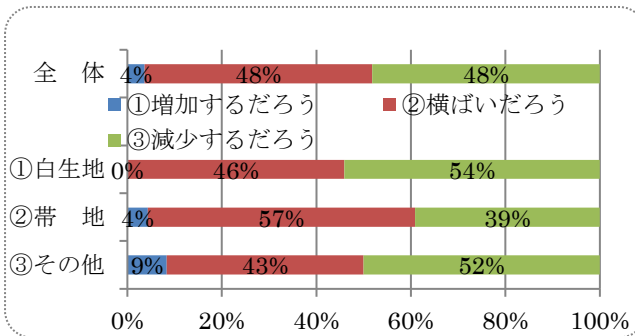
- 生産品目別では、「前年より多い」と「前年並み」を合わせた割合が、帯地 70%、その他 48%、白生地 43%の順となった。



## 5 令和2年の生産受注見通し

=「増加」と「横ばい」を合わせて52%=

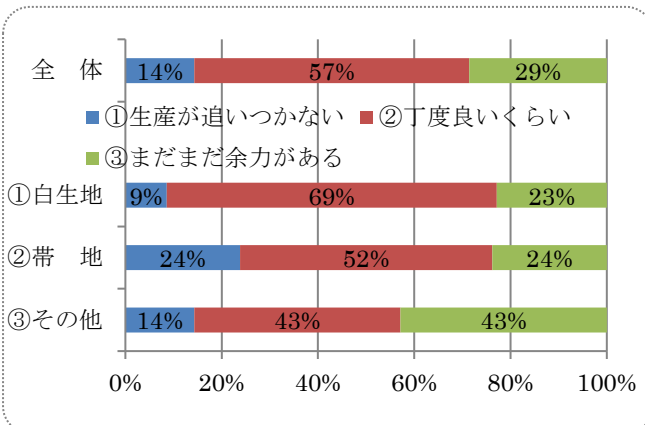
- 生産・受注見通しについては、全体で「増加」が4% (前年比±0PT)、「横ばい」が48% (前年比-10PT)、「減少」が48% (前年比+10PT) となった。
- 生産品目別については、「増加」「横ばい」は、帯地 61%、その他 52%、白生地 46% となった。



## 6 受注と生産のバランス

=「余力あり」が29%に増加=

- 「受注と生産バランス」については、全体では、「生産が追いつかない」が14% (前年比-14PT)、「丁度良いくらい」が57% (前年比-3PT) となり、「まだまだ余力がある」は29% (前年比+16PT) となった。



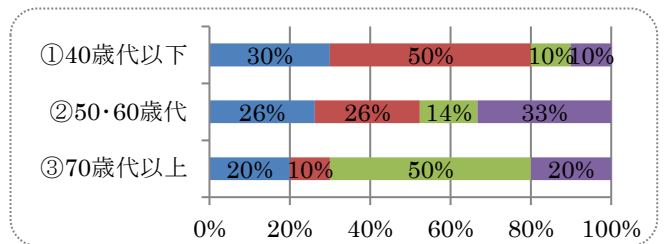
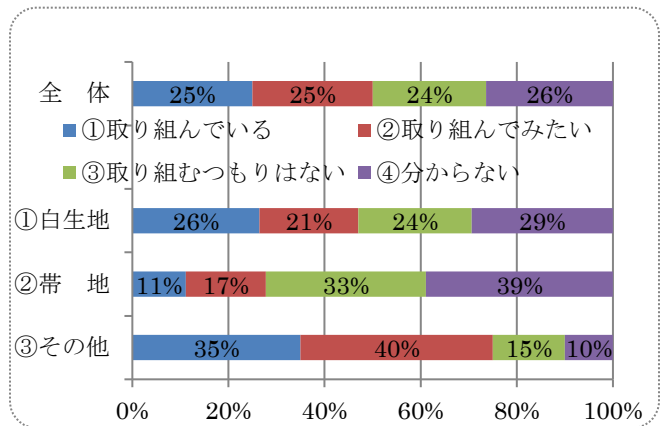
- 生産品目別では、白生地、帯地とも75%以上が「生産が追いつかない」または「丁度良いくらい」と答え、「まだまだ余力がある」は白生地 23% (前年

比+20PT)、帯地 24% (前年比+17PT) になった。一方、その他では、「追いつかない」が14% (前年比-21PT)、「丁度良いくらい」43% (前年比+13PT)、「まだまだ余力がある」43% (前年比+8PT) となった。

## 7 新しい取組への対応

=「若い層」、「白生地」・「その他」積極的=

- 新商品・最終製品の製作、販路の開拓、他分野との連携等「新しい取組への対応」を聞いた。全体では、「取り組んでいる」が25% (前年比±0PT)、「取り組んでみたい」が25% (前年比+8PT) と、積極回答が50% (前年比+8PT) となった。
- 生産品目別の積極回答は、その他が75% (前年比+15PT)、次いで白生地が47% (前年比±0PT)、帯地では28% (前年比+4PT) となった。
- 年代別の積極回答は、40歳代以下が80% (前年比-6PT)、50~60歳代が52% (前年比+6PT)、70歳代以上が30% (前年比-1PT) となった。



## 【第1部：補完】\*生産者の声から\*

=白生地は平成30年の反動から生産減=

\*平成30年は、「生糸価格の上昇」と「高齢化による丹後織物従事者減少」への懸念から、室町問屋の見込生産があり、景況感は例年になく良かった。令和元年はその反動の影響が大きく、白生地の生産減に繋がったようだ。

=従事者の減少から忙しさも=

\*織物業の従事者が減少していることで、その需要が流入して忙しくなっている側面がある。

=精練加工賃の値上げを懸念=

\*令和2年は、令和元年からの商況の悪さを引きずった中、加工場の精練加工賃の値上げの影響もあ

り厳しいだろう。

### =ユーザーが求めるきものが課題=

\*フォーマルきもの離れが進み、「きものユーザーが求めるきもの」をどのようにして創り出せるかがきもの市場で生き残るための課題。

### =きものヒット商品の事例も=

\*これまでに無かった白生地を開発し、室町問屋との協働で、新しいきものを提案、ヒット商品とした。この業界を成長産業として捉えている。

### =オリジナルきもの提案=

\*京都の図案家を活用するなどして、オリジナル先染めきものなど、常に新しいものづくりを継続し、室町に提案している。  
\*独自に糸染め、紋の製造を行い自社オリジナルの製品を作り、東京などの呉服イベントで最終消費者に向けて展示、販売している。

### =帯の市場は見込み生産が=

\*帯の小売り市場は年5%程度のペースで縮小が続いていると感じる。その上、市場（流通）には大量の在庫があることから、注文製品が減り、見込み生産が多くなっている。

### =帯についての問題は引き続く=

\*西陣帯の代行業としては、生産現場における「最低工賃」、「織手の高齢化」とともに、これまでの商習慣もあり流通の問題を感じる。

### =レンタル向け帯の需要は継続=

\*これからも、レンタル向け帯の需要は継続すると考えられる。現在、市場で求められている「軽めの帯」のニーズに対応するよう、自社オリジナル帯を開発・提案していく。

### =帯メーカーの生産拠点として経営=

\*従来の下請けスタイルではなく、試作に関わるなど、西陣帯メーカーの実質的な生産拠点となって工場を運営・経営している。

### =帯の織手を育てる環境が必要=

\*今後、10年後を見据えて、技術面、工賃面で、織手を育てる環境づくりを考えている。

### =和装小物市場を取り巻く状況=

\*和装小物市場は、特に成人式用振袖市場に左右されるが、昨年の消費税増税の影響もあり、昨今の「きものばなれ」が更に進んでいるように感じる。

### =帯揚げは国内生産に回帰=

\*帯揚げの生産現場は、中国企業の撤退による国内生産への回帰があり、結果的に令和元年は忙しい状況となった。

### =レンタル向け衿地は好調=

\*レンタルきもの向けのポリエステル衿地の需要は最近まで好調であったが、最近の新型コロナウイルス問題があり、これからの悪影響が懸念される。

### =ポリチリ市場の減少傾向は続く=

\*ポリエステルちりめん市場は、従来のユーザーの高齢化と嗜好の変化から、需要の減少傾向が続い

ている。

### =ポリチリをインテリア素材として提案=

\*新しい需要開拓のため、京都で染色加工を行ったポリエステルちりめんをインテリア用素材として提案、ホテルなどの内装材に採用された。今後も新しい市場での販路開拓を進めたい。

### =広幅シルク織物の今後の展開=

\*10年以上をかけて海外展示会へ出展するなど、シルク広幅織物の海外販路拡大を続けてきた。その結果、一定の固定客を確保できるようになった。今後は、固定客への継続的な製品の提案とともに、シルク素材を活用した最終製品の開発と事業化を検討したい。

\*織機を広幅化し、試作に取り組んできたところ、ようやく本生産の受注にこぎつけた。

\*広幅織機を導入し、現在、海外販路に向けたシルク織物の試作中。

### =ネクタイ生産者の事例=

\*複数の大手ロードサイドチェーン店舗向けのネクタイを、一部問屋に納めている。今後、生産量の減少など厳しい状況も想定されるが、製品企画から最終縫製までの一貫生産によるクイックレスポンスを自社の強みとして、これから新しい販路も開拓していきたい。

《第1部 終》

## 《第2部：丹後産地の展望・課題》

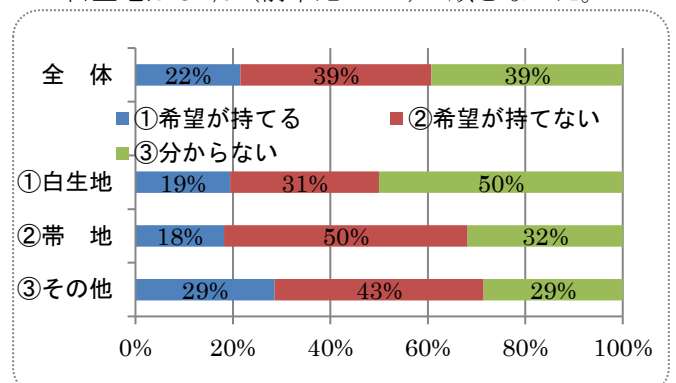
### 【アンケート結果】

#### 1 丹後産地の将来展望

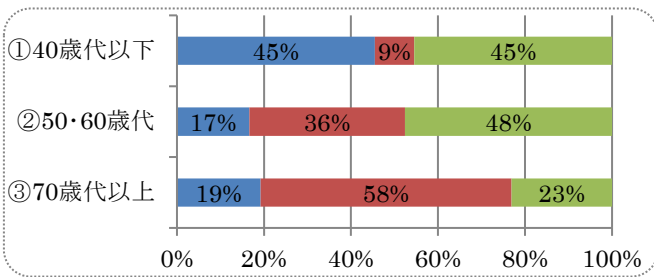
##### =「希望持てる」22%、40歳代以下45%=

●「丹後産地の将来展望」について聞いた。全体では、「希望が持てる」は22%（前年比±0PT）となり、「希望が持てない」39%前年比-4PT、「分からない」39%前年比+4PTとなった。

●生産品目別では、「希望が持てる」は、その他29%（前年比+8PT）が最も高く、白生地19%（前年比-6PT）、帯地を18%（前年比-1PT）の順となった。一方、「希望が持てない」は帯地が50%（前年比±0PT）と最も高く、その他が43%（前年比-10PT）、白生地は31%（前年比±0PT）の順となった。



●年代別では、「希望が持てる」が40歳代以下45%（前年比-12PT）。一方、「希望が持てない」は、40歳代以下9%（前年比-5PT）、50～60歳代36%（前年比-6PT）、70歳代以上58%（前年比+12PT）と若い層ほど希望が持てる結果となった。



**【第2部：補完】 \*生産者の声から\***

**=将来につながる丹後産地へ、思いと願い=**

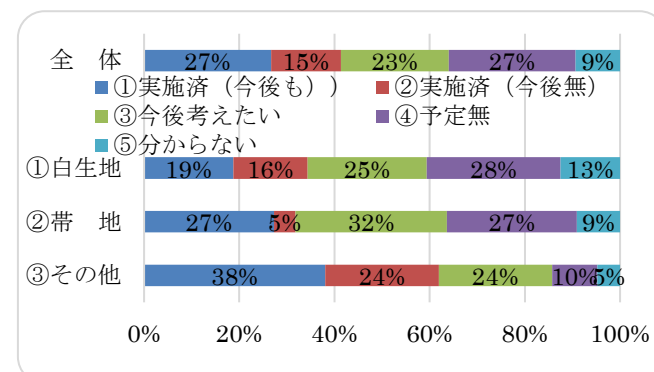
- ◎丹後がシルクの織物産地として、若い世代に引き継がれていくには、魅力ある機業、商品と産地の認知度が世界に広がるとともに、各機業の業績がアップ。
- ◎低織工賃、商品開発、販路の開拓、後継者の育成（準備、製織、染色、仕上げ、仕立て等の技術者）、機械の老朽化、ダイレクトジャカードの故障、部品の調達など課題は山積。
- ◎高級ギフトへシルク製品の供給。販路開拓と併せて適正価格の設定。従業員の待遇改善。丹後産地の歴史文化を内外への情報発信。次代の後継者を育成するための環境整備が急務。

**=準備工程、機材修理・調達に、不安と要望=**

- ◎内製化しているので特に困っていない。一方で、整経、たて継ぎ、織機調整の後継技術者の不在で先行き不安、部品の調達に時間を要するなど課題は山積。
- ◎関係機関への要望として、丹工の加工場で整経がして欲しい。また、織物は細分化、分業化された工程（準備、製織、染色、仕上げ、仕立て等）の積み重ねで全てに人材育成は急務。

**=設備投資の状況=**

●今回、初めての調査項目。全体では「実施済（今後も実施）」が27%。「実施済（今後は予定無）」が15%となった。



●生產品目別では、「実施済（今後も実施）」が「そ

の他」38%、「帯地」27%、「白生地」19%の順となった。

**【設備投資の効果】 \*生産者の声から\***

◎設備を更新することでお客様へ前向きな姿勢をアピールできるとともに、素早い対応もできる。一方で、設備投資に支援があるものの、安い単価、高い原材料の中で設備投資は困難というところも。

**=「丹後ちりめん創業300年」への提言=**

- ◎せっかくの大きな節目、オリンピック、パラリンピックも含め丹後だけでなく、「和」の文化を広める絶好のチャンス。
- ◎和装や織物の愛好家や観光客（インバウンドも取り込み）をターゲットに丹工はもとより関係団体が一体となって総合観光施策を展開する仕組みを構築し、これを行政が支援する。
- ◎まだまだ一部の人たちの話題に終始している感があるため、色々な手法を用い周知していく。

《第2部 終》

◆あとがき◆

- ・「アンケート結果」については、その内容をできるだけ客観的に分析することに留意しました。
- ・「補完」については、アンケート自由記述と聞き取り結果によりまとめましたが、異なるご意見やご見解もあるかと思えます。
- ・生産者の皆様には、アンケート調査及び聞き取り調査にご協力いただき、ありがとうございました。

=====  
 令和2年(2020)3月  
 ≪調査・編集・発行≫  
 公益財団法人京都産業 21 北部支援センター  
 〒627-0004  
 京都府京丹後市峰山町荒山 225  
 丹後・知恵のものづくりパーク内  
 TEL：0772-69-3675 FAX：0772-69-3880  
 E-mail：[hokubu@ki21.jp](mailto:hokubu@ki21.jp)  
 =====